支えあいのまちづくり協議体（京橋地域）実施報告

中央区に住む方・働く方ができる支えあいの形について、身近な地域で話し合う**「支えあいのまちづくり協議体（第２層協議体）」**の令和５年度第３回目を、京橋地域で開催しました。

１　実施日
令和５年 11 月１日（水）10:00～11:30

２　出席者
日頃高齢者と関わる機会の多い地域住民、関係機関、生活支援コーディネーター　10 名

３　内容
・出席者近況報告
・意見交換　①広報紙「きらきらいふ京橋人～ゆるっとつながる～」について
　　②社会資源把握のためのアンケート結果を受けて

４　出席者近況報告
出席者の近況報告を行った。

５　令和５年度第１回中央区地域支えあいづくり協議体の実施報告
「参加ニーズが高まる高齢者への情報発信」というテーマで意見交換を行ったが、第２層協議体の取り組みにおいても実感しているように、アナログとデジタルの両面で情報を発信することが大事であろうという意見が挙がったことや、それに加えて口コミも情報発信には大事な意味を持つという意見が挙がったことを共有した。また、男性の高齢者の参加意欲を促すためには、情報発信だけでなく、内容・目的などを工夫し参加しやすくする取り組みが必要であるといった意見が挙がったこと、その他、高齢者の方が多く出向くところで情報発信をしていくことも効果があるのではないかとの意見が挙がったことを共有した。

６　<u>意見交換　①広報紙「きらきらいふ京橋人～ゆるっとつながる～」について</u>
コーディネーターより、第６号案を３案提示し意見交換を行った。第６号では協議体メンバーがマイホーム新川を取材したものを掲載予定。
（案１）協議体メンバーのインタビューを掲載したもの・・・今回のメイン
（案２）特別養護老人ホームやデイサービスについて紹介するもの・・・（案 1）だけではマイホーム新川はどんなところなのかが伝わりにくいと考えたため作成
（案３）マイホーム新川が消防団協力事業所や福祉避難所であることを紹介するもの・・・（案 2）では、介護保険のことがメイン。“自分にはまだ関係ない”ことだと読まない方もいるのではと想定されるため、より広い年代層にも働きかけるために作成

●発行するのは（案１）のみがよいか、（案１）の他に（案２）や（案３）を加えて発行するのがよいか、意見交換を行った。

- ✓ 両面印刷にするのはどうか？
- ✓ （案１）だけだとマイホーム新川がどんなところなのかが分かりにくいので、（案２）や（案３）があると分かりやすい。
- ✓ 福祉避難所のことは知らなかったので、（案３）はよいと思う。ただ、少し文章が難しいので工夫が必要。
- ✓ 要支援や要介護の詳細を分からずにいたので、（案２）を見て理解につながった。
- ✓ ３枚発行するのはどうか？
- ✓ 紙面はシンプルでコンパクトなものがよい。詳細は QR コードにつながるようにするなど工夫が必要。
  →今回はマイホーム新川が作成した動画を紙面で紹介予定。マイホーム新川作成の動画には、特別養護老人ホームやデイサービスに関することの詳細があることをコーディネーターより共有。

以上の意見交換を踏まえ、（案１）と（案３）を発行することとなった。

●その他の意見

- ✓ マイホーム新川のイベント「オープンハウス」が今年は防災をテーマに 11/19（日）にある予定なので、その告知を掲載してもよいのでは？
  →町会・自治会に配布するタイミングを考えると、日程的に厳しくなる。今回はオープンハウスの様子をコーディネーターが取材し、写真を掲載することとなった。
- ✓ マイホーム新川はバス停が近いため、バスでのアクセス方法を掲載した方がよいのではないか。
- ✓ 目立たせたい文字の色を赤色に統一した方がよい。
- ✓ 配布するタイミングは掲示板の関係上、工夫が必要。
- ✓ 「マイホーム新川の事業等はホームページをチェック」の文言を柔らかくした方がよいのでは？

意見交換　②社会資源把握のためのアンケート結果を受けて

コーディネーターより、協議体として社会資源を把握し情報を届けることで、つながるきっかけづくりとしたり、足りない社会資源は創り出していくことも協議体の目的であることを改めて確認。その後、以下の意見交換を行った。

（１）通いの場ごとに集計したアンケート結果を共有し、意見交換

- ✓ 通いの場に来るようになったきっかけとしては、どの通いの場も「友だち（知り合い）からの紹介」が多いことが分かる。
- ✓ 通いの場に来る理由としては、「近いから」という理由が一番多い通いの場がほとんど。湊カフェは「友だちに会える」という理由が一番多く、通われている方も広範囲に及んでいる。

- ✓ 開催場所によっては、SNS での PR が盛んなところもあり、それが参加に繋がっているのではないか。
- ✓ 通いの場は自身で通って来られる方が前提。またプログラムの内容も介護予防を念頭に置いた体を動かす内容が多いので、体を動かすことが好きな方が多くなる傾向がある。ただ、お茶を飲んでおしゃべりを楽しみたい方などはあまり参加しないのではないか。
  →住んでいるマンションにも高齢者の方が数人集まって話をしているのを見かけることがある。たまに様子が見えないと不安になるが、見かけると一安心する。

（２）社会資源を地図に落とし込むワーク

通いの場アンケートで口コミの大事さ、近場に集まれる場があることの大事さが分かった。一方で、参加される方の層も特徴があるのですべてを把握できるとは言いにくい。そこで、メンバーからも意見が出たように、公共の場ではないが高齢者が集まっている場所や、地域がつながるために高齢者に限らず子どもも含め、人が集まる場所を地図に落とし込むこととなった。モーニングを提供している築地の喫茶店や、隅田川テラス沿いの公園など様々な集まる場所がメンバーから出た。

７　今後のスケジュール

次回は令和６年１月に開催予定。引き続き、社会資源を地図に落とし込むワークを行う予定。

＜参考＞　意見交換の様子